

1. 授業の概要(ねらい)

イタリア・ルネサンスの古典から、ダンテとマキアヴェリィの作品を読む。

ダンテ「神曲」は中世ヨーロッパ最大の叙事詩で、古典古代の伝統とつながるだけでなく、当時のフィレンツェやローマ教皇に対する厳しい政治的批判をも含んでいる。マキアヴェリィ「君主論」は、権謀術数を意味するマキアヴェリズムで知られるが、中世の理想君主論を脱して冷徹な現実から出発し、イタリアにおける国家権力のあり方を模索して、近代政治学の出発点とみなされる。

これらの読解を通して、人間と政治社会のかかわりを、当時の歴史的背景に照らして考察する。

2. 授業の到達目標

テキストの一字一句を厳密に読み、歴史的背景をふまえながら、その意味を正確に理解できること

提示された論点について自分なりの解釈をまとめ、グループ討論で積極的に意見を交わせること

以上を通して、日本語を読む・書く・聴く・討論する・発表するという、日本語の総合的な運用能力を高めること

3. 成績評価の方法および基準

毎回の予習課題の発表、およびグループ討論と全体発言における積極性による

4. 教科書・参考文献

教科書

マキアヴェリィ 「君主論」 中公文庫

ダンテ 「神曲・地獄篇」 河出文庫(プリント配布)

5. 準備学修の内容

次回のテキストの範囲を読み、予習課題を必ずこなしてこること

発声練習を自宅で毎日行うこと

6. その他履修上の注意事項

授業の冒頭で発声練習を毎回行う

90分間ぼんやりしている暇はないので、集中力を切らさないこと

7. 授業内容

- 【第1回】 夏休みの読書発表
キケロと古代修辞学
- 【第2回】 キケロ「カティリナ弾劾」の読解と朗読
- 【第3回】 ダンテとその時代・「神曲」入門
地獄篇(1)ダンテとウエルギリウス
- 【第4回】 地獄篇(2)地獄の門と三途の川
- 【第5回】 地獄篇(3)ダンテと古代詩人たち・オデュッセウス像の革新
- 【第6回】 地獄篇(4)フランチェスカとパオロ
- 【第7回】 地獄篇(5)フィレンツェ批判
- 【第8回】 地獄篇(6)ローマ教皇批判
- 【第9回】 マキアヴェリィとその時代
「君主論」は誰のために書かれたか
- 【第10回】 第1～6章:武器なき預言者サヴォナローラ
- 【第11回】 第7～10章:理想の君主チェーザレ・ボルジア
- 【第12回】 第12～14章:マキアヴェリィの軍制改革と軍隊論
- 【第13回】 第15～18章:君主の美德と悪徳について(その1)
- 【第14回】 第19～23章:君主の美德と悪徳について(その2)
- 【第15回】 「私のマキアヴェリィ語録」発表会